

校友会会報



酪農学園大学同窓会校友会



食と健康学類 栄養教育学研究室 3年生 6名

8月1日～4日まで、エスコンフィールドHOKKAIDO内にあるクラフトビール醸造レストラン「そらとしば by よなよなエール」と連携した商品開発に挑戦し、バゲットサンドや学生が育てたライ麦・ライ小麦を使ったビールが限定販売され好評を得た。絶賛販売中のメンバー6名によるひとコマ。

Contents

- 2 存在意義と同窓会活動 / 副会長 上村篤正
- 3 2026年4月より 農環境情報学類が設置され農食環境学群は4学類体制に / 農食環境学群長 小糸健太郎
- 4 健土健民の礎として / 循環農学類長 日向貴久
卒業生 安達永補さん (酪農学科2001年卒)
- 5 地域と共に歩む「食と健康」の新たな挑戦がスタートしました / 食と健康学類長 阿部茂
卒業生 小原亜季さん (旧姓：石原) (食と健康学類2017年卒)
- 6 フィールドと社会をつなぐ「共生の学び」 / 環境共生学類長 吉中厚裕
卒業生 鈴木尚之さん (環境共生学類2020年卒)
- 7 欧州獣医学教育認証取得後の獣医学類教育 / 獣医学類長 井坂光宏・卒業生 吉永早織さん (獣医学類2020年卒)
- 8 愛玩動物看護師国家試験と動物看護教育 / 獣医保健看護学類長 林英明・卒業生 増田麻子さん (獣医保健看護学類2016年卒)
- 9 校友会理事・代議員会報告
会計報告 (2024年度決算・2025年度予算)
同窓生お悔やみ欄 (2024年4月～2025年3月)
- 10 TOPIX 一大 学一
- 11 TOPIX 一卒業生一
- 12 第32回ホームカミングデーにて「第1回酪農学園同窓のつどい」を開催

存在意義と同窓会活動

酪農学園大学同窓会校友会

副会長 **上村 篤正** うえむら とくまさ

はじめに

酪農学園大学同窓会校友会会員の皆様におかれましては、ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。

また、日頃から校友会活動にご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。

私は北海道白老町で和牛の繁殖から肥育までの一貫生産ならびに肉の加工・販売・レストラン運営をコンパクトに経営しております。

2007年から校友会副会長に就かせていただき、これまでのことを踏まえ、これからの校友会についてお話ししたいと思います。

大学と同窓会の危機

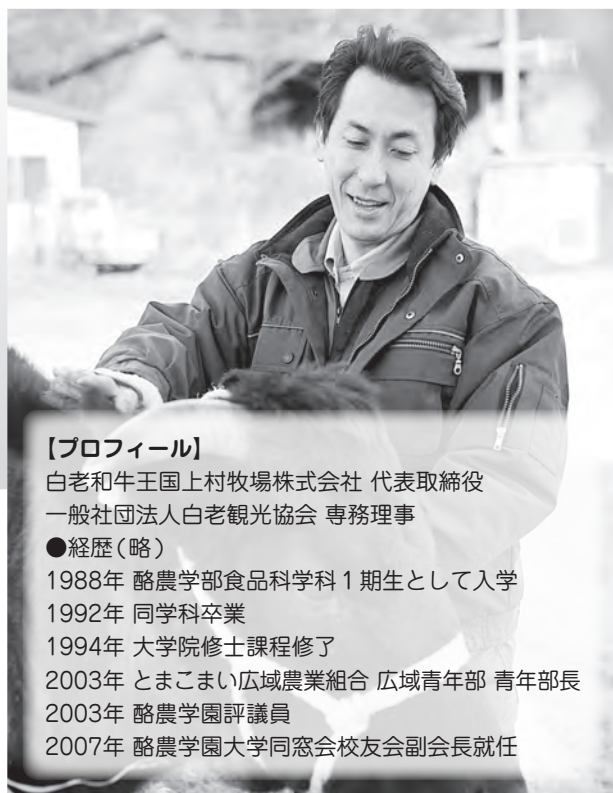
今、酪農大は危機的状況にあり大きな岐路に立っていると言えます。

一つは、2021年度入学生から定員割れ（獣医は除く）の状態であること。二つ目に退学者も多いこと。2024年度の入学者数641人（同窓会費納入者数）に対して退学者が76人（同窓会費返還者数）になっております。

また、同窓会においても個人情報保護法施行等の時代の変遷に伴い、より精度の高い名簿の管理が困難になってきております。また、通信手段の郵便では郵便料金の高騰や依然行先不明によるハガキの戻りが多いこと等です。地方での地区支部同窓会では、案内はがきの発送数に対して数%の出席率であり、費用対効果の悪さと出席率の低さ、それと若い卒業生の出席者が少なくなっていることや学科・学類によって溝があることなど多くの課題があると思います。

大学の定員割れとは、われわれの業界からすると受胎率が低く生まれる子牛が少ない上に死亡する牛が多いこととなります。このような経営では離農勧告を農協から受けます。また、商業界からは大学が社会から必要とされていないと言われているように思います。（商品が売れずに返品が多い会社）。酪農大の存在意義が社会に周知されていないことを非常にさみしく思うのと同時に憤りも感じます。

これまでの同窓会は、卒業生間の親睦がメインの活動でありました。卒業生が同窓会を開くときに、住所の提供や通信業務・費用の一部負担を行ってきました。私が新社会人として大阪に赴任した30年ほど前に、当



【プロフィール】

白老和牛王国上村牧場株式会社 代表取締役
一般社団法人白老観光協会 専務理事

●経歴（略）

1988年 酪農学部食品科学科1期生として入学
1992年 同学科卒業
1994年 大学院修士課程修了
2003年 とまこまい広域農業組合 広域青年部 青年部長
2003年 酪農学園評議員
2007年 酪農学園大学同窓会校友会副会長就任

時は名簿が全国の同窓生に渡されていて、それを見た先輩が会社に電話をしてくださり飲みに来て行ってくれたことが今でも忘れられない思い出であり、感謝しております。

しかしながら、個人情報取り扱いの難しい現代であれば、旧態依然の連絡手段を変える必要があると考えます。また、卒業生同士の懇親会等の開催連絡手段としてはLINEで十分ではないでしょうか。今こそ同窓会のメインの役割と連絡手段を変える時期にきていると思います。

大学は今、このような状況を生き残るために大きく変わろうとしております。その一つに校名の変更、新たな学類の新設等です。私の考えは、酪農大の存続が第一ではなく酪農大の存在意義が重要であり、社会に貢献できる人材の育成であると思います。その人材とは、この国の農業及び農業基盤を強化するための1次、2次、3次産業を担う人材、またはこの国の全産業で活躍する人材であり、その人材を社会に送り出すことが責務だと考えます。

私の理想とする同窓会活動

大学が変わろうとする今、われわれ同窓会と全国の同窓会支部活動の役割として、志の高い学生を入学させ、社会に貢献できるように育成し、社会に出た後もその活躍を後押しできる活動、またその酪農大の存在意義を社会に知らしめることを目標にしませんか。

私の理想は、**社会人1年目や2年目の社会に戸惑いを感じている卒業生に3年目以降の若い先輩が社会で経験を積み新しいことに挑戦している姿を見せることができる同窓会活動**です。そのためには、皆様の協力が不可欠です。



2026年4月より 農環境情報学類が設置され 農食環境学群は4学類体制に

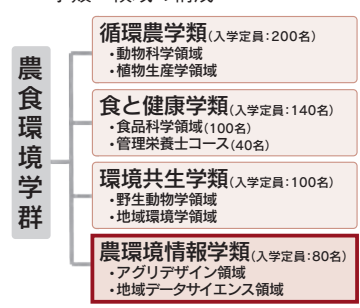
農食環境学群長 **小糸 健太郎** (こいと けんたろう)



校友会の皆様におかれましては、日頃より、農食環境学群の教育・研究にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、2026年度4月より農食環境学群に「農環境情報学類」が新設し、既存の3学類と合わせて4学類体制になります。同時に全学類のカリキュラムも改訂され、図に示すような新たな教育体制になります。それに伴い、現在、A2号館（旧食流館）とA3号館（旧農経館）の改修工事の準備が進められており、改修工事が終了しますと農環境情報学類の多くの研究室はA2号館とA3号館に配置される予定です。

図：2026年4月からの農食環境学群の学類・領域の構成



新たに設置する農環境情報学類は、「『情報の力』で地域の未来をつくる人材」を養成することを目的としています。現在、農村地域において、担い手不足への対応、気候変動への対応、食料の安定的な供給、野生動物との共生など、複雑な問題が重層的に存在しており、本学群の循環農学類、食と健康学類、環境共生学類の各学類の学びは、より一層、重要性が増すと考えております。そのような中、情報技術の進展に伴い、さまざまな課題を解決するツールとして「情報」の活用に大きな期待が寄せられています。農業、環境、地域社会のさまざまな分野においても、データ収集・分析、結果の可視化を通じて、課題を的確に把握し、持続可能な社会の実現に向けた新たな方策を導き出すことが、重要になっていると考えております。

農環境情報学類では、こうした時代の要請に応えるため、さまざまなデータを価値のある「情報」へと変換し、それを地域社会の発展に活かせる人材を養成し

ます。本学類では、専門領域として（１）「アグリデザイン領域」と、（２）「地域データサイエンス領域」の２つの専門領域により教育を行います。

（１）アグリデザイン領域は、学びのテーマを「経済学・情報学の学びを通して、地域社会における農業・食料・農村の役割と振興の方策を学ぶ」とし、コミュニケーション手法によって情報を収集し、農業・食料・農村の実態を把握し、農業経営や地域農業の特徴を分析でき、その情報を活用しながら地域社会を振興する方策を企画・提案することができる人材を養成します。その人材像の具体的なイメージとして例えば、効率的な経営ができる農業経営者、地域社会の発展をリードできる人、フードビジネスで新しい商品やサービスを生み出せる人、などを想定しています。

（２）地域データサイエンス領域は、学びのテーマを「環境学・情報学の学びを通して、地域の情報を収集・分析するテクノロジーとその活用を学ぶ」とし、ドローンやリモートセンシングなどのテクノロジーによる情報によって環境に関する実態を把握することができ、画像解析や数理的な分析で問題を可視化し、その情報をもとに現場との密接なコミュニケーションを図り、地域課題を解決する方策を企画・提案することができる人材を養成します。その人材像の具体的なイメージとして例えば、農業関連産業の効率化や発展を支援できる人、環境保全を情報技術で支える実務者・コンサルタント、地域に必要な事業をスタートアップできる人、などを想定しています。この２領域の人材を養成することで、本学類は次世代の農業、環境、地域社会の発展に寄与することを目指します。

この新学類の設置にあわせて学群の全学類のカリキュラムは、１年次に『共通教育』のみではなく、学群・学類の基礎となる専門に関連した実習科目や演習科目および講義科目の一部を１年次から配置し、学群教育から学類教育、領域ごとの専門教育さらには各領域の専門分野へと、今まで以上に学生が意欲を持って体系的に学べるように留意して配置します。

このような農食環境学群の新体制により、学生募集でも幅広い方向から高校生の皆さんに興味を持っていただけるように、本学群の教育・研究の魅力を発信していきます。また、教育・研究のさらなる充実に取り組んでいきます。校友会の皆様におかれましては、是非とも、引き続き、農食環境学群の４学類のご支援とご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

循環農学類の近況

健土健民の礎として

循環農学類長 ひなた たかひさ
日向 貴久



同窓生の皆さま、こんにちは。日頃より本学および循環農学類の教育研究にご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

本学は来年度より学群・学類の改組を行うこととなり、来年度は定員が240名から200名となります。これまでの酪農学・畜産学・農学・農業経済学の4コース体制を改め、動物科学領域と植物生産学領域の2領域へと整理されます。

また、学群には新たに「農環境情報学類」が設置され、本学類の農業経済学および農業施設学の教員がそちらに移る予定です。学内体制の変化はありますが、循環農学類としての実学的な教育・研究の姿勢は変わらず、これまで以上に現場と繋がる学びを深めていきたいと考えています。

学生・教員の活動も、地域と共に歩む酪農大らしい実践が続いています。昨年度、農食法制度論研究室（正木卓先生）の学生が企画・商品化したJAながぬまの「沼る浅漬」が、今年も店頭に並びました。現在、



この商品の担当を務めているのは、昨年度卒業し同JAに勤務する本学類出身の松本峻平さんです。学びの成果が地域で息づき、若い力が地元産業の新しい価値づくりに貢献していることをうれしく思います。

さらに、農場生態学研究室の園田高広先生が一般社団法人農業電化協会主催の「令和6年度農業電化推進コンクール」において大賞を受賞されました。先生の指導のもと、生産者がホワイトアスパラガスの生産量を大きく伸ばした取組みが評価されたもので、資材・エネルギーの削減にも資するなど、本学が推進する循環型農業の実践事例の一つといえます。

5月には、連携協定を結ぶ株式会社クボタによる無人トラクタの実演デモが本学園場で行われました。最

株式会社クボタによる無人トラクタ実演（5月28日/本学園場）



新技術を実際に目の当たりにした学生たちは、生産現場の未来を実感する貴重な機会となりました。

循環農学類のもう一つの強みは、卒業生と教員との絆の深さです。開学以来、多くの教員が長年にわたり学生教育に携わっており、卒業後に母校を訪れた際に恩師と再会を喜ぶ声も多く聞かれます。こうした温かなつながりこそが、循環農学類の土台を支える大きな力になっています。今後も「教員と卒業生が共に育てる学類」として、その関係を大切に育んでいきたいと思ひます。

なお、今年度は7人の教員が定年退職を迎えられます。これまで学生教育と研究の発展にご尽力いただいたことに、心より感謝申し上げます。最終講義は来年1～2月に学内で実施され、詳細は近日中にHP上に掲載される予定です。恩師との再会を楽しみにしていただければ幸いです。

社会や環境が大きく変化する中であっても、酪農学園大学が名実ともに母校として誇りを持てる存在であり続けるよう、本学類は本学のミッションである「健土健民」を支える礎として、同窓生の皆さまと共に歩んでまいります。

乳房持つ神 我とともに



家畜管理・行動学研究室（干場信司・森田茂先生）卒業後、安達牧場へ就職。2004年に父より経営移譲され、現在は牧場代表／乳クリエーターとして経営を担う。趣味は食へ歩き。

酪農学科 2001年卒

自分と向きあう環境があったからこそ今がある

幼少期から周囲には「跡取りだ」と言われていましたが、家業を継ぐ気はありませんでした。そんな私が、酪農の知識を発展途上国で活かそうと青年海外協力隊を目指していた時、日本最大手の乳業メーカーで食中毒事件が起きました。とある日のテレビ報道で学校給食の場面が映し出された際、「牛乳はどこからできているの？」の問いに小学生が元気よく「工場！」と答えたのを見て、「牛じゃ

Graduate

あだち えいすけ
安達 永補さん



ないんだ…何にも伝わっていない」と思い、酪農を伝えるために家業を継ぐことを決心しました。

やりたくない酪農をやるからには、「自分の幸せとは何か」と自身と向き合う時間が必要でした。その答えを導き出したのは、創設者である黒澤西蔵の生き方や哲学を学ぶ環境があったからです。「生産者・消費者・地域が酪農を通じて笑顔になる！」という目標に向けて、これからもふれずに日々多くのことに向き合おうと思っています。

食と健康学類の近況

地域と共に歩む「食と健康」の新たな挑戦がスタートしました ー石屋製菓・北竜町・クボタと包括連携協定を締結ー

食と健康学類長 **あべ つとむ**
阿部 茂



食と健康学類では、地域と連携した教育・研究活動を積極的に進めています。学生が地域に出向き、地元の食材を活かした商品開発や健康づくりの取り組みに関わるなど、「学びながら地域に貢献する」実践的な学びを大切にしてきました。

こうした活動の延長線上に、このたびの新しい取り組みがあります。食と健康学類が所属している農食環境学群は、北海道を代表する製菓メーカー・石屋製菓株式会社、ひまわりのまちとして知られる北竜町、そして世界的な農業機械メーカー・株式会社クボタの

三者と、包括連携協定を締結しました。大学・企業・自治体が力を合わせ、「食」「農」「健康」「環境」の分野で新しい価値を生み出していくことを目指しています。

石屋製菓は、「白い恋人」をはじめとする人気商品で知られ、確かな製菓技術と北海道の魅力を発信するブランド力を持っています。北竜町は、オーガニック農業や再生可能エネルギーの導入など、持続可能な地域づくりに早くから取り組んできた自治体です。そしてクボタは、スマート農業や環境技術を通じて、食と農の未来を支える企業です。この三者と本学類が連携す

ることで、地域の食産業と健康分野を結ぶ新たなプロジェクトが動き始めました。

本協定では、地域食材を活用した新商品の開発や、食と健康に関する研究、学生の学びの場づくりなど、幅広い取り組みを予定しています。たとえば、石屋製菓との北海道初のパニラピーンズの実用化や北竜町産のひまわり油や農産物を使ったスイーツの共同開発、健康機能性の検証、さらにはクボタの技術を活かしたスマート農業体験など、さまざまなアイデアが検討されています。これらの活動を通じて、学生たちは実際の現場で学び、食と健康の関わりをより深く理解していくことができます。

食と健康学類が掲げる「食を通して人と地域の健康に貢献する」という理念は、まさに今回の連携の中心にあります。地域の食資源をどう活かし、どのように人々の健康や地域の発展につなげていくのか。その課題に、大学・企業・自治体が共に向き合うことは、これからの時代に必要な新しい協働のかたちだと感じています。

今回の協定締結は、食と健康学類にとっても大きな節目となりました。地域と共に歩み、社会に貢献する教育研究をさらに進めるための重要な一歩です。今後も学生、教職員、そして地域の皆さまと力を合わせ、

2025.6.26 株式会社クボタと締結



北海道から「食と健康の新しい未来」を発信していきたいと考えています。

これからの活動に、ぜひご期待ください。

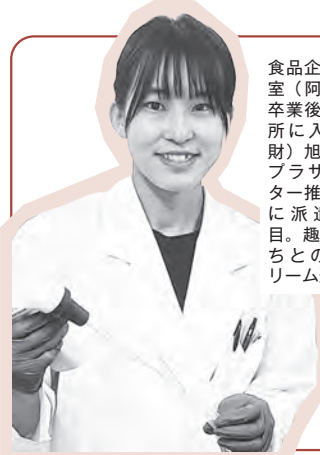
2024.12.20 石屋製菓株式会社と締結



2025.8.6 北竜町と締結



Graduate



食品企画開発研究室（阿部茂先生）卒業後、旭川市役所に入庁し、（一財）旭川産業創造プラザ 食クラスター推進グループに派遣され9年目。趣味は子供たちのソフトクリーム巡り

食と健康学類 2017年卒 **おばら あき**
小原 亜季さん（旧姓：石原）

“迷ったら実践すること”を大切に

私は卒業論文で微生物を扱う研究を行いました。見えないものを見る、その結果を考察して次に繋げることの難しさ、楽しさを学びました。

卒業後は、旭川市役所に入庁し、民間企業に派遣されており、旭川市を含む道北エリアの食品関連企業を様々な形で支援しています。主な業務内容は、食品の微生物試験を行い、商品の衛生状況を確認することや一般成分分

析、栄養成分表示を含む食品表示の確認などを行っています。まだまだ、先輩たちから指導を受けており、日々勉強しながら働いています。

そんな私は、大学時代から、「迷ったら実践すること」を大切にしてきましたが、これからも、自分が思うことは様々な方法で実践し行動に移し、そして結果を考え、道北地域の企業支援を行っていききたいと思います。

また、2児の男子の母として日々奮闘中！母になりますます大変ですが、これからも仕事は続けていきます！



環境共生学類の近況

フィールドと社会をつなぐ「共生の学び」

環境共生学類長 よしなか あつひろ
吉中 厚裕



同窓生の皆様には、日頃より環境共生学類の教育・研究活動に多大なるご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。

私たちが直面する環境問題は、気候変動や生物多様性の損失といった地球規模の課題から、地域の自然資源の管理や暮らしのあり方まで、ますます複雑になっています。環境共生学類では、こうした課題を「自然と人との関係性」の視点から総合的に捉え、北海道という豊かなフィールドを最大限に活かした教育と研究を進めています。

学生は様々なフィールドで生態系の多様性と人間活動との関係について学んでいます (写真：釧路湿原)



キャンパス内外でのフィールドワークは、本学類の大きな特色の一つです。森林、湿原、湖沼、農村といった多様な環境を舞台に、学生たちは調査・実習を

通じて自然環境の成り立ちや人との関わりを体感しながら学んでいます。近年は、大学キャンパスの森林を活用した保全管理や生態系調査の成果を整理し、自然共生サイト・OECM (Other Effective area-based Conservation Measures) 登録に向けた検討も進めています。大学としての社会的責任を踏まえ、教育・研究の場そのものが地域の自然共生の拠点となることを目指しています。

また、国際的な学びの機会も広がっています。昨年度はカナダ・アルバータ大学との連携のもと、学生が現地の国立公園や環境教育施設を訪問し、人と野生生物の共存のあり方を学びました。こうした体験は、異なる文化や価値観を通じて「環境共生」をより広い視野で捉える貴重な機会となっています。

2026年度には大学全体の学群再編が予定されており、新たに農環境情報学類が開設されます。環境共生学類としては、これを機に自然科学・人文科学・社会科学を統合する教育をさらに深化させ、地域と世界の架け橋となる人材育成を進めていきたいと考えています。

卒業生の方々のご活躍は本学類の大きな誇りです。環境分野をはじめ、行政、農林業、教育、企業、NPOなど、多様な現場で「共生」の精神を生かした活動を展開されています。学生たちにとって、先輩方の姿は何よりの励みとなっています。

今後も、未来の社会における「共生のかたち」を探究する学びの場として、環境共生学類は進化を続けます。引き続きのご支援とご指導を心よりお願い申し上げます。

Graduate



国際理解学研究室 (吉中厚裕先生) 卒業後、環境省小笠原自然保護官事務所でアクティブ・レンジャーとして勤務。任期満了後、国家公務員試験を受け環境省信越自然環境事務所国立公園課係員に。趣味は歩くこと・写真撮影・釣り

環境共生学類 2020年卒

すずき たかゆき
鈴木 尚之さん



自然の魅力を伝えるため 公務員試験にチャレンジ！

学生の頃は、自然の魅力を伝える仕事がしたいと考え、大雪山やサロベツなどで訪問者向けのガイドをしていました。

卒業後も自然の普及啓発をしたいと考え、小笠原にある環境省の事務所でアクティブ・レンジャーをしていました。働く中で、地元の子供向けの普及啓発のほか、外来種の侵入

を防ぐ柵の管理や固有動植物の生息状況調査など、様々な分野の仕事や人と関わることで考え方が少し変わり、正規職員として今後も環境行政に関わっていききたいと考え、任期満了後に公務員試験を受けました。

現職になってからはまだ1年と駆け出しで、様々な知識を蓄えているところですが、今後は全国の国立公園で環境行政に従事しつつ、国立公園に訪れる方々に自然の魅力を伝えていきたいと思っています。

獣医学類の近況

欧州獣医学教育認証取得後の獣医学類教育

い さ か みつひろ
井坂 光宏
獣医学類長



酪農学園大学同窓生の皆様におかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より獣医学類の教育、研究ならびにエクステンション活動につきまして、多大なるご支援を賜り心よりお礼申し上げます。

昨年の獣医学類の近況に記載しましたが、2024年12月に欧州獣医学教育認証(EAEVE)を取得することが出来ました。現在、専任教員(アカデミア)、専任教員(病院教員)、嘱託を含めて86名体制(2025年5月)であり、今後も増員する予定です。今年度より5年生時に、齊一のCCT(core clinical training:参加型臨床実習)が開始され、伴侶動物内科、伴侶動物外科、画像診断、麻酔、馬医療学、シェルターメディシン、展示動物(動物園や水族館)、病理診断や食鳥検査、生産動物など全学生が様々な経験を得ることが可能になっております。その臨床教育前に、プレクリニカルトレーニングとして、スキルスラボ棟にて、バーチャルトレーニングを含めて、伴侶動物(犬、猫、馬)、生産動物、食肉検査、展示動物など各実習を実施しております。

私は30期卒業なのですが、当時を比較すると、教育改革が非常に進んでおり、おそらく全国獣医系大学でナンバー1のE-learning教育システムが構築されており、復習をはじめ、学生は勉強しやすい環境にあると思います。さらに、双方向性評価(教員間、教員学生間)も充実しており、学生が選ぶベストティーチャー賞も設立し、2024年度に関して、1年生は解剖学の渡邊先生、2年生は生理学の安井先生、3年生は麻酔学の伊丹先生、4年生は食品衛生学の樋口先生、5年生は該当なし、となり、10月11日に開催された保護者懇談会にて私の方から紹介し、獣医学群教授会にて表彰されました。諸先輩方が作り上げた教育方法を、時代に即した教育を遂行するため、今後もPDCAを実施していきます。これまでも酪小獣麦の会をはじめとした動物病院、道内外の公的機関を含めて多くの同窓生の皆様のお世話になりましたことをこの場を借りて熱く

お礼申し上げます。

ここで、2024年度～2025年度9月末日に退職された先生方をご紹介します。これまでの本学のご貢献に心より感謝申し上げます。

[退職の先生方]

浅川満彦(教授)、北村浩(教授)、安藤達哉(准教授)、松山亮太(講師)、山口智之(助教)、中出哲也(嘱託教授)、北澤多喜雄(嘱託教授)、木村優樹(嘱託助手)、高木楓(嘱託助手)、西田暁子(嘱託助手)、藤田麻由(嘱託助手)、岩佐採奈(嘱託助手)が退職されました。

一方で、新たに2025年度は13名の方が着任されています。

諸先輩方も気になる獣医師国家試験の受験結果ですが、本学類は新卒で78.9%の合格率となり、厳しい結果となりました。それを踏まえて、獣医学類の学力向上委員会にて6年後期に実施する統合獣医学の運用方法を改良し実施しております。

最後になりますが、酪農学園大学同窓生諸氏のご健勝を教員一同、心よりご祈念申し上げます。

酪農学園大学 獣医学科創立60周年パーティー(2025.3.14)
60周年=還暦ということで、特別に獣医学類教員より2024年・2025年に還暦になられた先生方へ、1964/1965 Tシャツと生年月日の新聞紙付きでお酒をプレゼントしました。



Graduate

獣医学類 2020年卒

よしなが さおり
吉永 早織さん



携わる人の姿に刺激されながら…

大学生生活後半は実際に働く前に診療を経験したい思いから、外科学研究室に所属していました。夜遅くまでの活動など大変なこともありましたが、自分が臨床現場で働いていけるかを知る良い機会となったと思います。

現在は総合臨床認定医資格の獲得を目指しつつ、救急診療を学ぶことで効率的な診断治療ができるように精進しているところです。

また、卒後に飼育し始めた猫の影響で猫の生態やキャットフレンドリーな診療にも興味をもち、知識を高めています。以前の病院ではキャットフレンドリークリニック資格取得に携わり、今後も多くの病院に広がっていくと良いなと思っています。

同期や先輩、そして後輩の姿に刺激されながら、画像診断技術や外科技術の向上など、専門分野の開拓にも力を入れていきたいです！

伴侶動物外科学 I ユニット(上野博史/井坂光宏先生)卒業後、札幌近郊の花川ルル動物病院に就職。現在は東京にある日本動物医療センター(24時間診療)に勤務。趣味は旅行・美味しいものとお酒を嗜むこと

獣医保健看護学類の近況

愛玩動物看護師国家試験と動物看護教育

獣医保健看護学類長 **林 英明** はやし ひであき



同窓生の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。日頃より獣医保健看護学類の教育及び研究活動にご協力をいただき感謝申し上げます。大学の方ではこの秋より菅野先生と北澤先生が嘱託教授として、植田先生が特任教員として看護学類所属教員として教鞭をとっていただけることになりました。看護学類教育のさらなる充実に期待しております。

愛玩動物看護師国家試験は第3回目の試験が実施され、昨年度の卒業生は講習会を受講した上で、国家試験を受験いたしました。結果として、受験した在学者55名に対して合格者が54名となり合格率は98.2%でした。一昨年度の合格率90.3%より高い合格率となりましたが、今年度は100%の合格率を目指して今回の国家試験に向けての対策を講じているところです。卒業生のうち約76%の44名が伴侶動物の動物病院に就職しており、それ以外では動物関連企業、そして家畜人工授精師や中小家畜関連と生産動物関係の職種にも就職しております。

学類での看護教育については、スキルスラボ棟でのシミュレーターを活用した実習、そしてスキルを習得した上で参加する臨床実習(クリニカルローテーション)

ン)など、これまでの教育内容が2022年度からのカリキュラムでは国家資格対応のカリキュラムとなり、今年度には完成年度となることで、講習会を受講することなく国家試験を受験できるようになります。現在は現行のカリキュラムを検証し、次のカリキュラムがより良い物になるよう検討を進めております。

学外との関連につきまして、学内に設立された北海道の動物愛護センター「あいにく」ではシェルターメディスンの研究・教育の場として活用させていただいております。動物愛護フェスティバルにつきましては、天候不良で開催が危ぶまれていましたが4,000名もの方々に参加いただき、盛況な開催となりました。また、昨秋には山下学群長を大会長として日本動物看護学会第34回大会を本学にて無事開催することができ、こちらも多くの方に参加いただく大会となりました。

獣医保健看護学類ではしっかりと知識と経験、スキルを身につけた愛玩動物看護師を社会に送り出すだけでなく、ゼミでの活動を通して動物と人との関係を学び、地域社会に貢献できる人材を輩出できるような教育を目指しておりますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2025年度 動物愛護フェスティバルinえべつにて



動物行動学ユニット(佐野忠士先生)卒業後、北海道大学動物医療センターで動物看護士として4年間勤務。その後、北海道盲導犬協会へ転職し現在繁殖部門を担当。趣味はゲーム・プロ野球観戦



獣医保健看護学類 2016年卒

将来の盲導犬候補を誕生させることへの感動とやりがい

子どもの頃に犬を飼育したことをきっかけに、盲導犬の育成に携わる仕事に就きたいと思うようになりました。

そのためにはまず動物のことをより深く学び、寄り添える存在になろうと動物看護師を目指し、酪農学園大学獣医保健看護学類に入学しました。卒業後は、動物看護師として4年間臨床の現場で勤務することができたのはとてもいい経験となりました。

Graduate

ますだ あさこ
増田 麻子さん



現職である、北海道盲導犬協会での主な業務内容は犬の交配や出産、繁殖犬の管理で、特に犬の出産に立ち会うのは大変なことも多いですが、将来の盲導犬候補の誕生は毎回感動すると同時にやりがいを感じています。視覚障がい者の方に一頭でも多くの盲導犬を貸与できるように、動物看護師という資格を活かしつつ、これからも日々の業務に取り組んでいきたいと思っています。

(写真は、学生当時に学類で飼育していた犬と一緒に撮った懐かしの1コマ)

2025年度

大学同窓会 校友会 理事・代議員会報告

5月23日(金)18時から、新さっぽろアークシティホテルにて理事・代議員等23名の出席により開催された。恒例により議長は会長(野英二)、進行は事務局長(加藤浩)、議事録署名人には山崎耕太理事、岡本吉弘代議員が選出された。

会議は、議案第1号2024年度事業報告・収支決算、第2号2025年度事業計画・収支予算と進んだが、第3号校友会会則改正についての審議が長引いたため、改めて会議を開催することとなった。

6月20日(金)17時半から同窓生会館会議室において臨時理事・代議員会が開催された。理事・代議員等19名が出席し、議長は小阪進一代議員が務めた。前回審議の長引いた議案第3号の校友会会則改正については、会則第25条の会費徴収および返還についての改正の他、現行の中で矛盾している条項を挙げ、第2条・5条・7条・11条・13条・17条についても審議を行った結果、満場一致で承認された。

会則25条改正可決により、会費徴収については、来年度より入学時一括徴収(30,000円)から、大学・大学院に在籍する全ての学生を対象(一部除外あり)に年次5,000円を納入いただく制度(卒業時10,000円含む)へと変更された。

最後に、7月5日のホームカミングデーで開催される「酪農学園同窓のつどい(12頁)」の告知で終了した。



会計報告 2024年度決算および2025年度予算について下記のとおり承認された

収 入 (単位: 円)

項 目	2025年度予算	2024年度予算	2024年度決算	備 考
同窓会費(校友会費)	19,590,000	19,110,000	19,260,000	30,000円×642名(全学類・再納入1名)
獣医同窓会費	4,590,000	4,620,000	4,680,000	30,000円×156名(獣医学類・転学類2名)
預 金 利 息	13,160	1,140	13,160	普通預金・定期預金
助 成 金	10,000	10,000	10,000	理事・代議員会開催への助成(酪農学園同窓会より)
獣医同窓会費返還預り金	270,000	210,000	390,000	退学者30,000円×13名
雑 収 入	0	0	0	
当年度収入計	24,473,160	23,951,140	24,353,160	
前年度繰越金	13,343,028	12,285,541	12,285,541	
収入計	37,816,188	36,236,681	36,638,701	

支 出

項 目	2025年度予算	2024年度予算	2024年度決算	備 考
校友会事業費	7,920,000	8,000,000	6,408,686	
(入学式関係費)	1,400,000	1,450,000	1,297,950	パスケース(1,920円×670個)等
(卒業式関係費)	2,570,000	3,300,000	2,150,899	卒業記念パーティー助成(3,500円×287名)学位記ホルダー(1,507円×610冊)等
(在学生関係費)	1,100,000	160,000	160,000	白牌祭、食生活改善運動への協賛
(同窓生関係費)	100,000	0	0	在庫対応
(ホームカミングデー関係費)	100,000	30,000	0	学園主催
(会報関係費)	2,000,000	1,900,000	1,900,000	発送代、印刷代等
(周年記念同期会・退職記念祝賀会助成金)	650,000	1,160,000	899,837	助成金、発送代等
同窓会支部活動助成費	5,888,334	5,450,334	5,497,834	活動費・通信費等の助成、住所管理等(9,500円×641人-591,666円)
獣医同窓会活動費	4,590,000	4,389,000	4,446,000	28,500円×156名
代行徴収業務委託手数料(2025年度より廃止)	0	1,185,000	1,195,500	獣医同窓会費を含む同窓会費収入の5%(酪農学園へ)
同窓会費返還金	1,875,000	1,875,000	1,900,000	退学者等(25,000円×76名)
獣医同窓会費返還金	270,000	210,000	390,000	退学者等(30,000円×13名)
校友会運営費	3,640,200	3,670,200	3,457,653	
(会議費)	120,000	120,000	106,200	会場料・弁当料等
(同窓会負担金)	640,200	640,200	640,200	同窓会活動助成金
(人件費)	2,500,000	2,500,000	2,302,501	事務局長手当含む
(通信費)	60,000	60,000	57,209	電話料、郵送料等
(旅費交通費)	20,000	50,000	62,250	理事、代議員 他
(福利厚生費)	10,000	10,000	0	慶弔費等
(消耗品費)	200,000	200,000	222,193	事務用品、コピー料等
(雑費)	90,000	90,000	67,100	振込手数料等
基金繰入金	0	0	0	
雑 支 出	0	0	0	
当年度支出計	24,183,534	24,779,534	23,295,673	
次年度繰越金	13,632,654	11,457,147	13,343,028	

(単位: 円)

基 金	金 額
周 年 事 業 費	7,000,000
卒業記念事業費	54,460,000
同窓生会館施設管理費	3,000,000
合 計	64,460,000



▲理事・代議員会出席者(理事9名・代議員10名・監事2名)

同窓生お悔やみ欄 【2024年4月～2025年3月】

～ここに謹んでご冥福をお祈りいたします～

澤田 強 (酪農・1期)	大西 千郷 (農経・8期)
仙北富志和 (酪農・1期)	須藤 彰 (農経・20期)
高石 俊孝 (酪農・1期)	遠藤 正司 (獣医・1期)
高橋 徹 (酪農・1期)	徳本 勝弘 (獣医・2期)
西川 求 (酪農・1期)	西井 功 (獣医・5期)
大滝 昭夫 (酪農・4期)	五十嵐利男 (獣医・7期)
前田 暁男 (酪農・4期)	北村 裕和 (獣医・7期)
白木 龍雄 (酪農・7期)	棚川 雄二 (獣医・7期)
橘 隆 (酪農・7期)	小林 邦弘 (獣医・13期)
阪井 紀方 (酪農・11期)	佐久間映莉子 (獣医・14期)
青木 清 (酪農・12期)	上野 朝枝 (獣医・24期)
菊田 治典 (酪農・16期)	岡本 麻路 (獣医・26期)
日置 明男 (酪農・16期)	西澤 尚之 (獣医・26期)
佐伯 誠治 (酪農・25期)	武田 哲男 (獣医・28期)
松岡 昭好 (酪農・28期)	安藤 順一 (獣医・38期)
片岡 敦彦 (酪農・34期)	敬称省略



自家生産牛としては本学初の快挙！

2025.9.19



▲Jサイアーカーフクラス1位「ドルビック ポテトサラダ ミル号」と乳牛研究会の学生たち

安平町の北海道ホルスタイン共進会にて開催された「第3回石狩・空知ホルスタイン共進会」において、本学の乳牛が1部で1等賞、3部で2等賞を獲得し、「第16回全日本ホルスタイン共進会（全共）」への出場牛として2頭が選抜されました。全共に出場するのは、10年前に購入牛で出場した以来であり、自家生産牛としては初の快挙です。日々の改良と飼養管理の成果が大きく実を結んだ結果といえます。なお、10月25日に開催の全共出場結果は〈部門：第1部 未経産10月以上12月末満〉優等賞第6席にドルビック ポテトサラダ ミル号が入りました。

進路決定した先輩学生による、なんでも相談室

2025.9.30

キャリアセンター主催で開催し、49名の学生が利用しました。農食環境学群は、ホクレン農業協同組合連合会、よつ葉乳業株式会社に内定した先輩に相談する学生が多く、獣医学類は公務員（農林水産省総合職、厚生労働省）に内定した先輩に熱心に話を聞く姿が多数見受けられました。



【校友会主催】丼物200円で提供し学生を応援

今年度7回目を迎える、学生応援企画は11月の週に1度4日間（7日・13日・19日・25日）で開催しました。丼物をみそ汁付き200円で提供するというもので、1日250食限定の合計1,000食を提供しました。いずれの日



も行列をなす盛況ぶり、開始30分～1時間程で完売と好評のうちに終了しました。ご協力いただいた学園生協の皆様、ありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。



フィットネスチャンピオンシップスで全国優勝！

2025.8.24

神奈川県で開催された「オールジャパンジュニアフィットネスチャンピオンシップス2025」において、



▲循環農学類3年 重富陽紀さん

循環農学類3年生の重富陽紀さんが、メンズフィジーク172cm以下級で優勝を果たしました。重富さんは「ボディビルダーとして活躍している先輩、小澤亮平選手（2016年度 循環農学類卒）のような“酪農家 兼 ボディビルダー”を目標に、学業との両立を大切にしながら、今後も努力を重ねてまいります。」とコメントを結びました。

最先端ロボット牛舎を新築

—2026年完成予定—

ロボット牛舎の完成イメージ



新たな牛舎新築により、昨今さまざまな課題に直面している「酪農」を「楽農」へと転換することを目指しています。最先端の施設を整備するだけではなく、建学の精神に基づいた実践的な学びを提供することで、未来の地域と農業の創造に貢献できる人材養成を続けていきます。

導入予定の自動搾乳ロボット



DeLaval VMS™ V300 2025 Model

ICS graduate Pinky

2024 11.16 剣道部創部60周年記念（合同稽古会・祝賀会） 場所：新さっぽろアーキシティホテル（祝賀会）

今回は50周年時同様に九州や関西、関東、東北等、全国各地から参加した来賓4名、OB・OG55名、現役部員11名を含め70名の参加で行われました。合同稽古では、奇跡の剣士と言われた教士八段位合格の佐山正之さん（栃木県在住32期）から学生に、模範稽古をつけていただく等し、その後は祝賀会が行われ、大いに賑わいました。



2025 6.21 第11回酪農学園柔道部牛歩会総会・懇親会 場所：TKPガーデンシティ札幌駅前

2年ぶりの開催の前に、大学内の健身館で合同稽古を行い、その後、会場を移して総会・懇親会を開催しました。今年は役員改選でしたが、会長には飯田進作が再選されました。また、記念講演の講師三本木貴志さんが育てた葡萄で作られたワインが提供される等盛り沢山な中、終始懐かしくも和やかな時間を過ごすことができました。



2025 7.5 酪農学科20期生同期会 場所：ホテルエミシア札幌

同期が65歳になる今年、総勢34名が遠くは九州からも駆けつけてくれました。昼は大学で開催された「酪農学園同窓のつどい」に参加し、夜は同期のみの同窓会を開催。会へは恩師4名を招き、母校で奉職し永眠された佐藤元昭氏をはじめ、故人となった同窓生や恩師へ黙とうを捧げました。歓談では終始賑やかに旧交を深めました。



2025 7.5 環境共生学類1期卒後10周年記念同期会 場所：ホテルモントレーエデルホフ札幌

呼びかけが遅く1期生19名・教員3名の参加でしたが、懐かしの面々で、当時の話や現状についての話を花を咲かせました。一人一言（自己紹介）やビンゴゲームを実施し、景品を酪農グッズにしたことで、昼間開催していた白樺祭に参加できなかった卒業生にも、新たな魅力を知って貰えたと思います。



2025 7.19 獣医学科47期卒後10周年記念同期会 場所：ジャスマックプラザホテル

同期会は52名の参加で始まり、冒頭より、在学中の懐かしい写真や研究室でのコマなどをまとめたスライドショーを上映しました。中盤では、「近況報告リレー（各々30秒以内で近況報告し、次の参加者にマイクをパス）」を行い、大いに盛り上がりました。最後は、幹事が閉会の挨拶をした後、記念撮影をしてお開きとなりました。



2025 10.25 獣医学科37期卒後20周年同期会 場所：札幌ガーデンパレスホテル

当日は37期生に加え山下和人獣医学群長を迎えて、総勢30名が参加し、卒後20年を経て再会を喜び合う温かい雰囲気になりました。冒頭では、幹事の伊丹貴晴から開会のあいさつ、続いて、山下和人獣医学群長より乾杯のごあいさつをいただきました。会の進行では、参加者一人ひとりが壇上で現況を報告する時間を設け、それぞれの専門分野での取り組みや課題、やりがいについて語り合いました。

第32回ホームカミングデーにて

第1回

酪農学園同窓のつどいを開催

“おかえりなさい”



▲ネームプレートをかける
高島英也理事長

7月5日(土)ホームカミングデーにおいて、酪農学園ホール(生協)2階にて「酪農学園同窓のつどい」が開催されました。対象は大学・短大・高校の卒業生および現旧教職員とその家族で、この日は白樺祭も開催される中、約160名が参加し交流を図りました。

会場では対象者へ「健土健民牛乳」や「酪農アイス」が振舞われ、11時半からスタートした同窓のつどいでは、オードブル等の軽食・飲料が並んだテーブルを囲みながら、イベントとしてお米券・ビール券・図書カードが当たるビンゴゲーム大会を実施し、大いに盛り上がりしました。



▲東京都・愛知県から
参加の卒業生

酪農アイス
健土健民牛乳
無料配付

うまいな～



大ビンゴ大会



1等 お米券 1万円×1本
2等 お米券 5千円×1本
3等 お米券 3千円×1本
4等 お米券 1千円×10本
ビール券 1千円×10本
図書券 1千円×7本



2等賞ビンゴ!!

ビンゴゲーム後もタイトなスケジュールでしたが、集合写真撮影・学園ミニ散歩・白樺更新プロジェクトである記念植樹等を楽しみ、恒例の記念礼拝、記念講演へと続き、永眠者を追悼後、作家の藤岡陽子氏他の講演が行われました。

また今回、創世寮OB交友会、農経12期生、酪農20期生、農経42期生は、昼に「同窓のつどい」へ参加し、夜はそれぞれの同期会を開催しました。参加者からは「楽しかった。あつという間だった。来年も来たい。」等の声が寄せられました。

卒業生の皆様、この日に合わせて同期会を企画してはいかがでしょうか。



▲白樺並木での植樹

学園ミニ

さんぽ



▲旧大学寮資料展示室(同窓生会館内)にて

▼第1回酪農学園同窓のつどい開催記念集合写真



2026年度 ホームカミングデー『酪農学園同窓のつどい』開催(予定)

- 日 時 2026年7月4日(土) 11:30～13:00 白樺祭と同日開催
- 場 所 酪農学園ホール(生協) 2階 学生食堂
- 対 象 大学・短大・高校の卒業生および現旧職員とその家族
- 会 費 無 料(オードブル・飲料等提供)
- 申 込 右記QRコードまたは、同封ハガキの太枠内と下の通信欄に「同窓のつどい参加希望」とご記入の上、投函ください(当日の受付でも可能ですがなるべく事前にお申込みください)
- 締 切 2026年6月1日(月)
- 内 容 同窓生や恩師と再会し、食事をしながら歓談。ビンゴゲーム大会等イベントあり
- その他 詳細は酪農学園同窓会または酪農学園大学同窓会校友会ホームページで随時更新

卒業生の皆さん、
お待ちしております♪

▼お申込はこちら

